

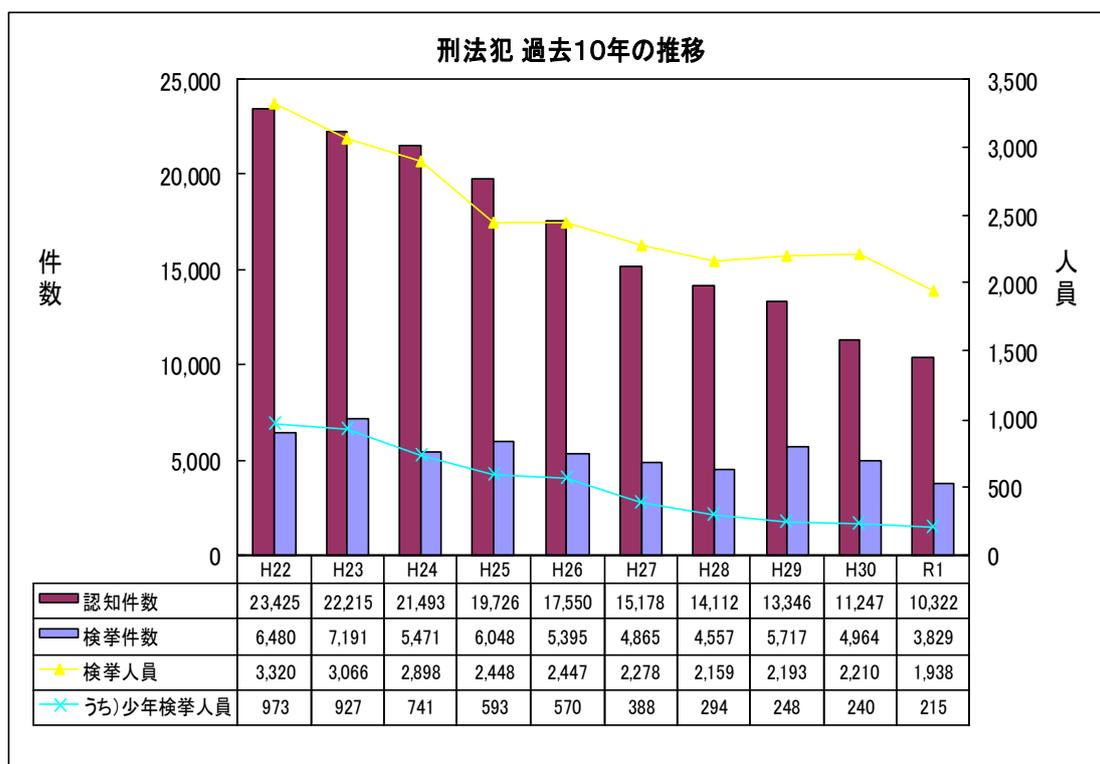
# 1 三重県における刑法犯の認知・検挙状況

令和元年の刑法犯認知件数は10,322件でした。

平成14年に戦後最多の47,600件を記録した後は、年々減少し、平成21年に7年ぶりに増加したものの、令和元年は戦後最少の件数となりました。

(図1)

図1



(注) 認知件数とは、警察において発生を認知した事件の数をいう。

(注) 検挙件数とは、警察で検挙した事件の数をいい、解決事件の件数を含む。

(注) 検挙人員とは、警察において検挙した被疑者の数をいう。

(注) 少年検挙人員とは、14歳以上20歳未満の者が犯した犯罪の検挙人員をいう。

## 2 三重県における重要犯罪及び重要窃盗犯の認知・検挙状況

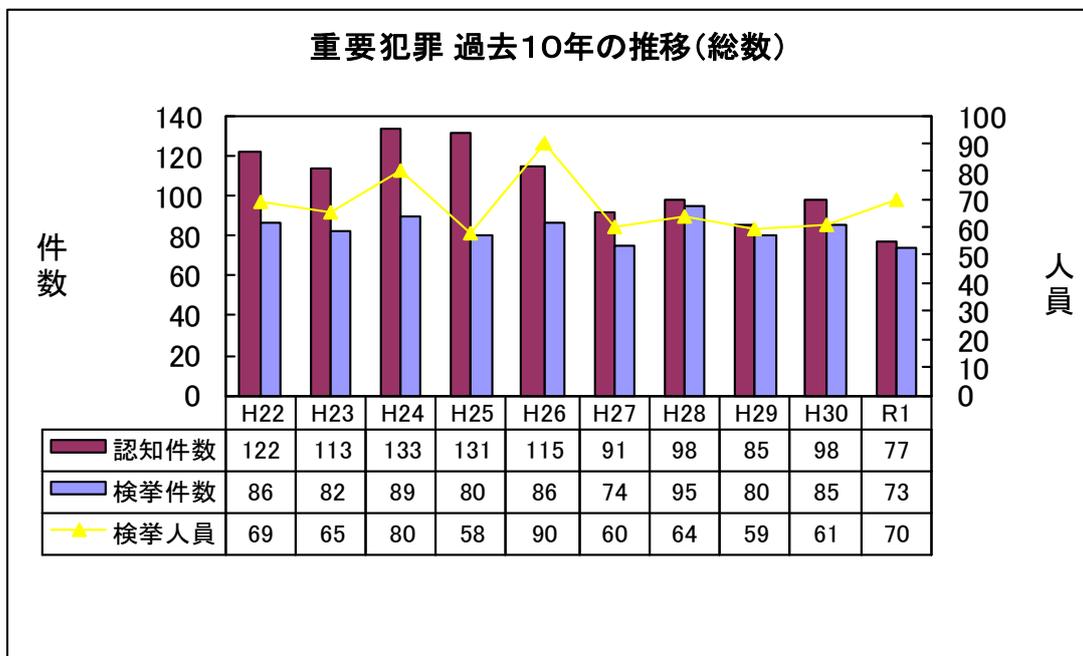
警察では、刑法犯のうち、個人の生命、身体及び財産を侵害する度合いが高く、国民の脅威となっている重要犯罪（殺人、強盗、放火、強制性交等の凶悪犯に略取誘拐・人身売買、強制わいせつを加えたものをいう。以下同じ。）、重要窃盗犯（窃盗犯のうち、侵入窃盗、自動車盗、ひったくり、すりをいう。以下同じ。）の検挙に重点をおいた捜査活動を行っています。

### ① 重要犯罪の認知・検挙状況

重要犯罪の認知件数は、平成19年以降は減少と増加を繰り返しながらも、減少傾向を示しており、令和元年は平成30年に比べ、21.4%の減少となりました。（図2）

罪種別では、平成30年に比べ、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつが減少しています。（図2-1～図2-6）

図2



（注）重要犯罪とは、殺人、強盗、放火、強制性交等の凶悪犯に略取誘拐・人身売買、強制わいせつを加えたものをいう。

図 2 - 1

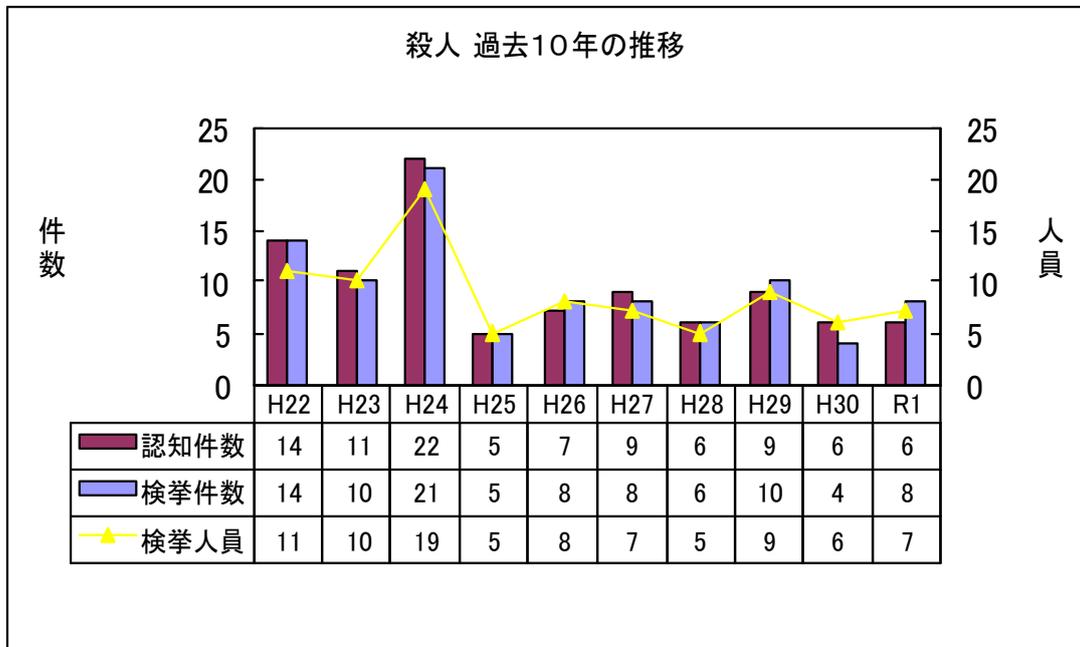


図 2 - 2

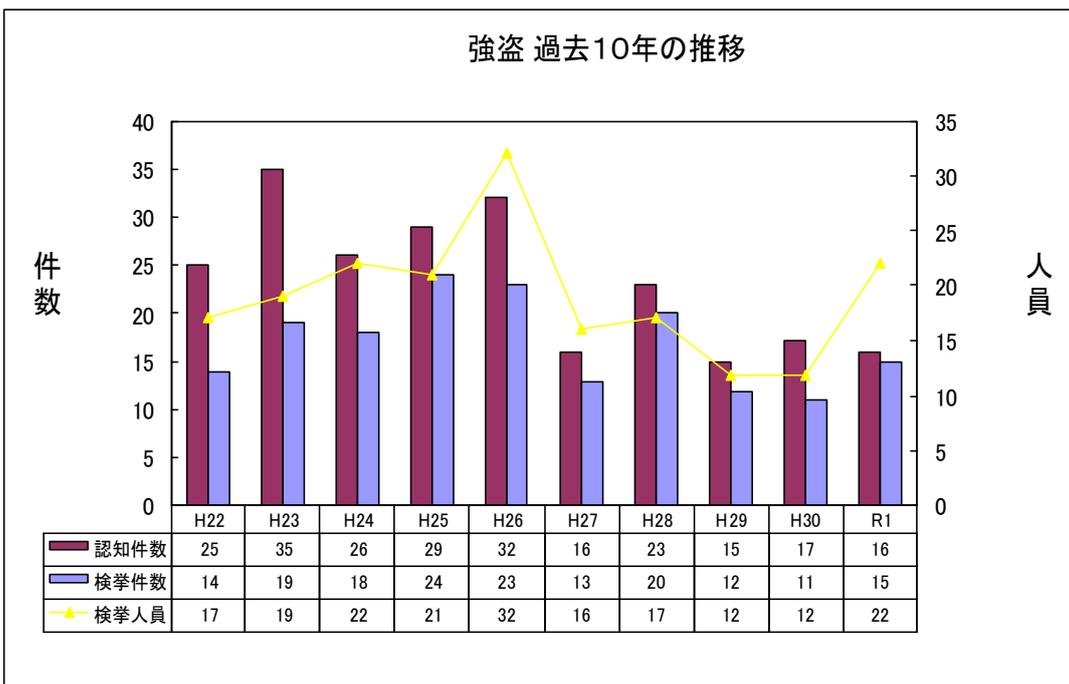


図 2 - 3

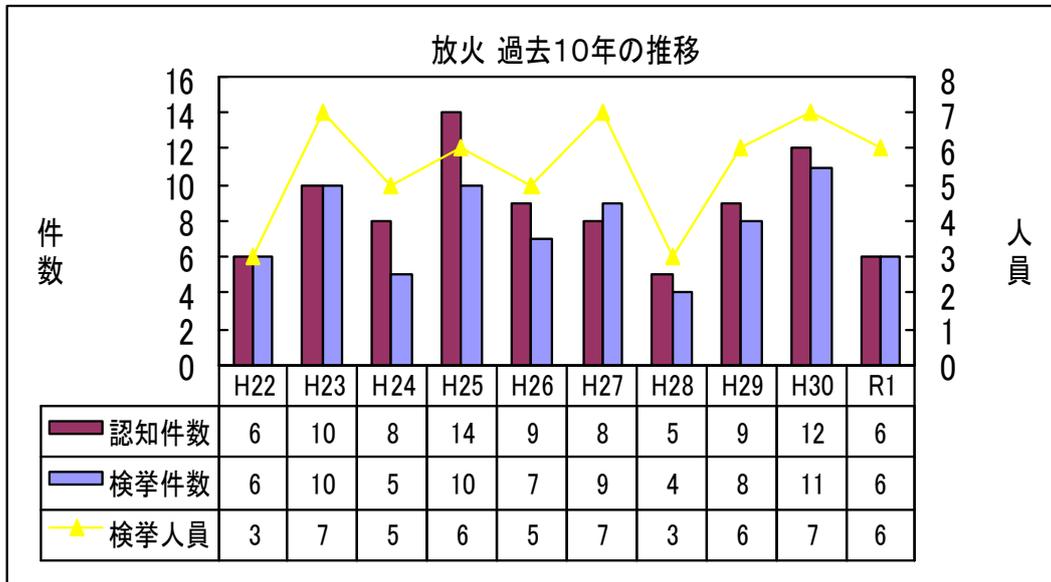


図 2 - 4

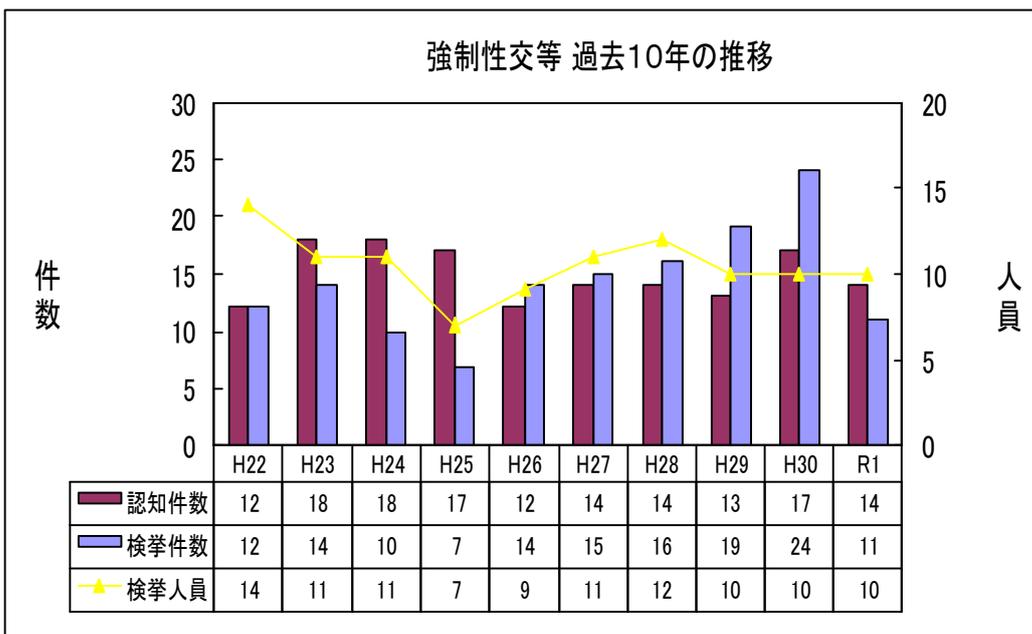


図 2 - 5

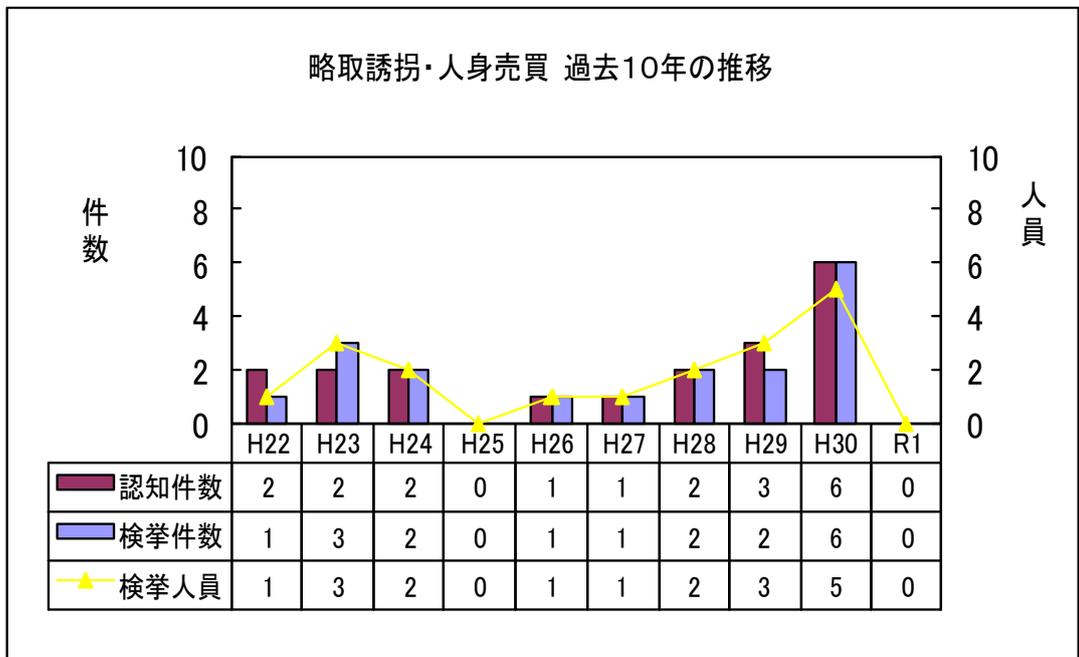
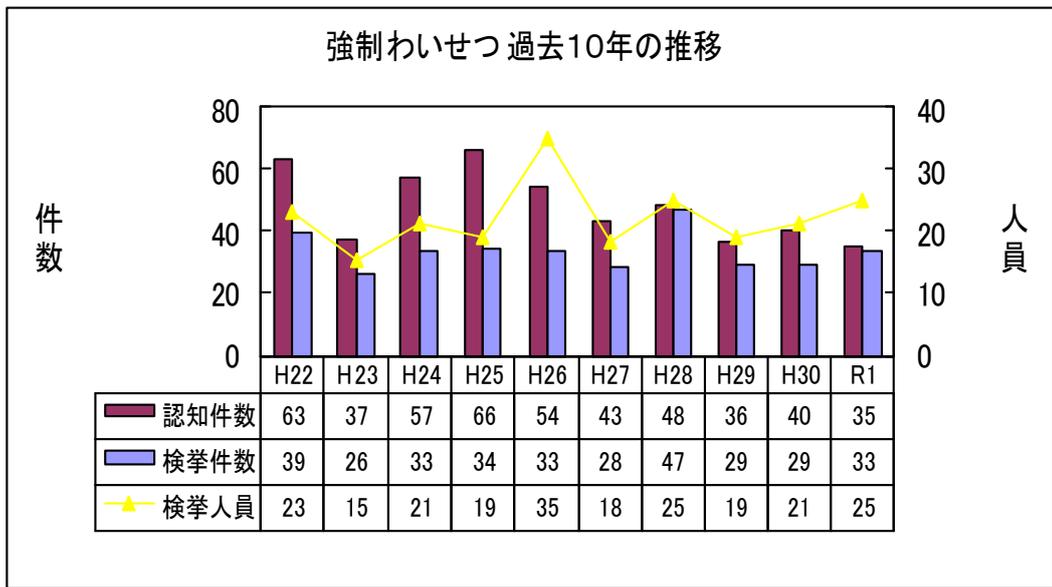


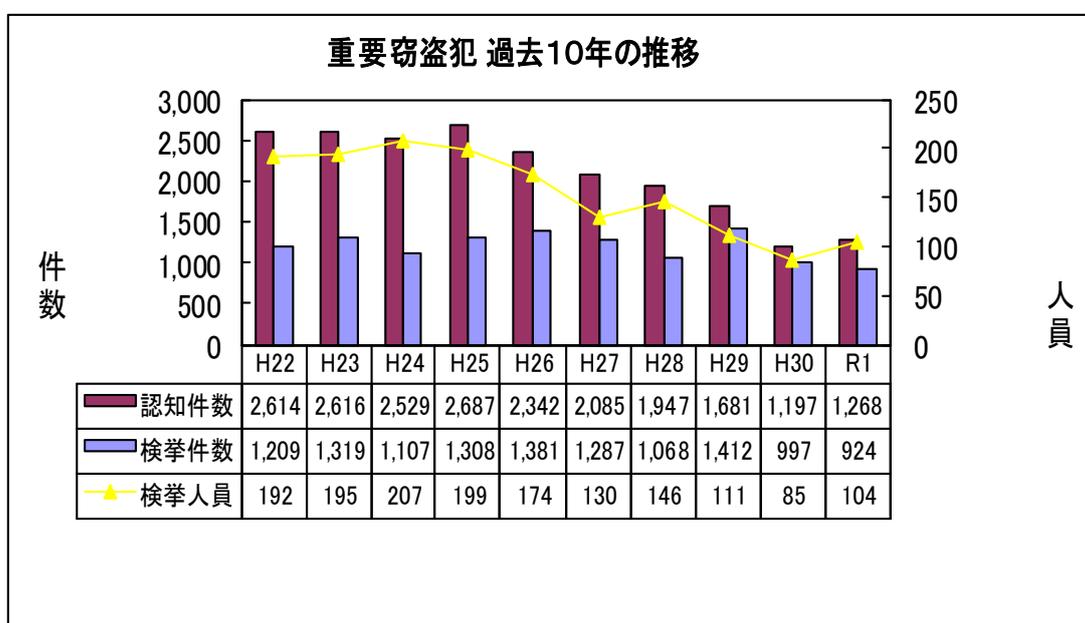
図 2 - 6



## ② 重要窃盗犯の認知・検挙状況

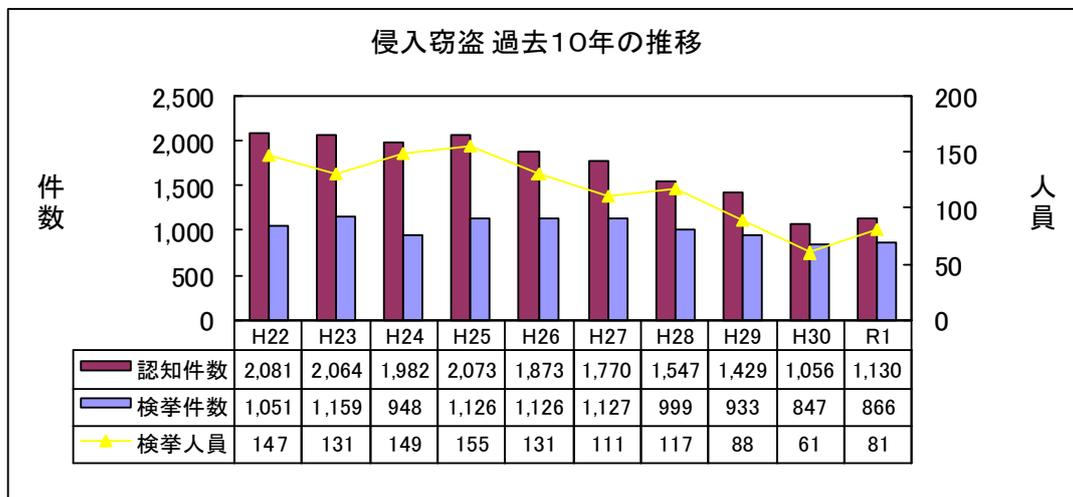
重要窃盗犯の認知件数は、平成15年に戦後最多を記録した後、減少傾向を示しています。平成30年は過去10年で最低の件数となりましたが、令和元年は平成30年に比べ、5.9%の増加となりました。(図3)

図3



(注) 重要窃盗犯とは、窃盗犯のうち、侵入窃盗、自動車盗、ひったくり、すりをいう。

図 3 - 1



(注) 侵入窃盗とは、空き巣、事務所荒し、学校荒し、金庫破り等の手口の犯罪をいう。

図 3 - 2

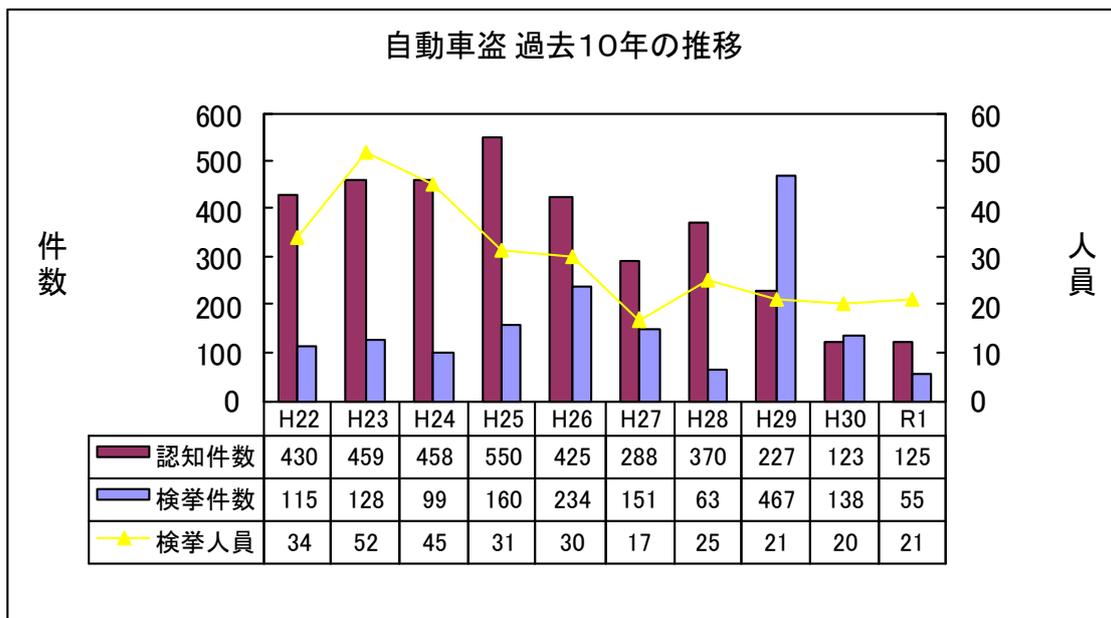


図 3 - 3

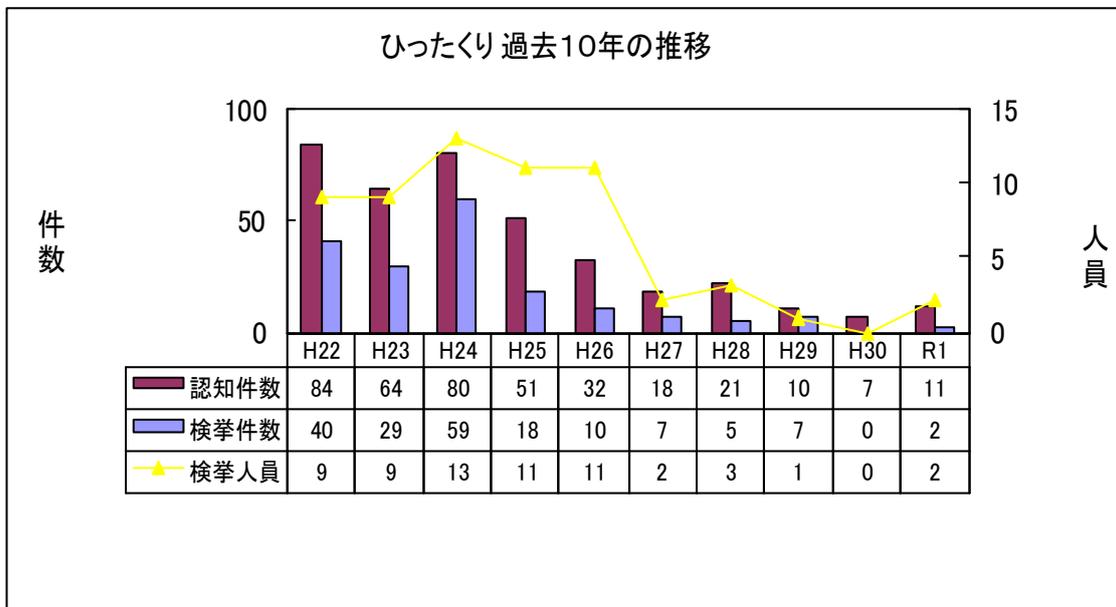


図 3 - 4

